

## 看護師の臨地実習指導に関する認識からみた実習指導の現状とコロナ禍における影響

(臨地実習指導／看護師／看護学生／コロナ禍)

坂根可奈子<sup>1)</sup>・大國 慧<sup>2)</sup>・佐藤亜美<sup>2)</sup>・福岡理英<sup>3)</sup>・秋鹿都子<sup>2)</sup>・榊原 文<sup>3)</sup>  
松浦志保<sup>2)</sup>・永井真寿美<sup>2)</sup>・福岡美紀<sup>1)</sup>・周藤幸子<sup>4)</sup>・田中真美<sup>4)</sup>

### Report and Issues of the Training System From the Awareness Survey of Nurses Who Supervised Clinical Practice for Nursing Students

(supervising clinical practice / nurse / nursing student)

Kanako SAKANE<sup>1)</sup>, Kei OGUNI<sup>2)</sup>, Ami SATO<sup>2)</sup>, Rie FUKUOKA<sup>3)</sup>, Satoko AIKA<sup>2)</sup>, Aya SAKAKIHARA<sup>3)</sup>,  
Shiho MATSUURA<sup>2)</sup>, Masumi NAGAI<sup>2)</sup>, Miki FUKUMA<sup>1)</sup>, Sachiko SUTO<sup>4)</sup>, Manami TANAKA<sup>4)</sup>

【要旨】本調査は、臨地実習指導に関わる看護師の実習指導の現状とコロナ禍による実習指導上の影響を明らかにし、実習指導体制における現状と課題を検討することを目的とした。対象者は、B病院看護師であり、実習指導の実施状況と認識、コロナ禍の影響についてWeb調査を行った。回答者のうち、調査実施年度に実習指導に関わった141名を分析対象とした。多くの看護師が、COVID-19対策による実習指導への影響を認識しながらも、看護実践の経験や見学ができるよう関わり、学生が把握していない患者情報を適宜教えながら指導を行っていた。また、看護師長、臨床実習指導者の役割を有する看護師の方が、実習目標、内容、学生のレディネスを把握して指導を行っていた。一方、学生をPNSの一員と意識して関わることや、レディネスを把握した実習指導については全体的に実施状況が低く、困難感が高い結果となり、実習指導体制における課題であると示唆された。

## I. 緒 言

わが国では、医療の高度化や入院期間の短縮化、多様性、複雑性の増す患者の社会背景など、医療の現場は急速に変化してきている。変化を続ける医療現場で、看護師はこれまで以上に高い専門性の発揮と、質の高い看護ケアの提供が期待されている。

そのような社会ニーズから、看護学士教育課程における看護専門職の育成が期待されている。2018年には、

看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標<sup>1)</sup>が示された。これは、看護学士教育の質保証の観点から示されたものであり、学生は4年間を通して、対象となる人を全人的に捉える基本能力、ヒューマンケアの基本に関する実践能力、根拠に基づき看護を計画的に実践する能力などを身につけることが求められている<sup>1)</sup>。臨地実習は、講義・演習で学んだ知識や技術・態度を統合させ、リフレクションを繰り返すことで、看護実践能力を習得・深化させる。そのため、教育上重要な役割を果たしている。

臨地実習指導においては、実習施設と大学教員が連携し、協力体制をとって指導を行うことが原則である<sup>2)</sup>。実習指導者と大学教員が学生の学びを共有して指導に関わることで、学生の学びが深まり、実習がスムーズに進むと報告されている<sup>3)</sup>。しかし、実習指導を担う看護師は実習指導において、教育機関との連携不足<sup>4)</sup>、実習指導者役割の遂行など様々な困難<sup>5)</sup>を感じていることが報告されている。

A看護系大学とその実習施設であるB病院では、看護

<sup>1)</sup> 島根大学医学部基礎看護学講座

Department of Fundamental Nursing, Faculty of Medicine, Shimane University

<sup>2)</sup> 島根大学医学部臨床看護学講座

Department of Clinical Nursing, Faculty of Medicine, Shimane University

<sup>3)</sup> 島根大学医学部地域・老年看護学講座

Department of Community Health and Gerontological Nursing, Faculty of Medicine, Shimane University

<sup>4)</sup> 島根大学医学部附属病院看護部

Department of Nursing, Shimane University Hospital

師と教員が連携し、臨地実習に対する意識の共有や教育力の向上を図ることを目的とした定期的な合同会議やFD研修会などの取り組みを、2013年度から行ってきた。今回は取り組みの一環として、看護師の実習指導における認識と、コロナ禍による実習指導上の影響に関する調査を実施したため報告する。

## II. 調査目的

A看護系大学の臨地実習指導に関わるB病院看護師の実習指導の実施状況およびコロナ禍における影響を明らかにし、実習指導体制における現状と課題を検討することを目的とする。

## III. 調査方法

1. 用語の定義 (B 病院・A 看護系大学臨地実習指導要領を基に作成)

1) 臨床実習指導者

病棟全体で指導に関われるよう、病棟看護師長とともに、実習環境および実習指導体制を整える役割を有し、実習指導における中心的役割を担う。また、学生にとっての役割モデルであり、学生の実践する看護に対して必要に応じて助言・監督する役割、および患者ケアにおける責任を有する。

2) 担当看護師

臨床実習指導者と同様、学生にとっての役割モデルであり、学生の実践する看護に対して必要に応じて助言・監督する役割、および患者ケアにおける責任を有する。

2. 対象者

調査対象者は、B病院に勤務する臨床経験4年目以上の看護師541名とした。実習受け入れ病棟以外においても、見学実習等で実習指導に関わる機会があるため、すべての部署の看護師を対象とした。臨床経験4年目以上の看護師は、担当看護師として学生の実習指導に関わることが多いため設定した。

3. データ収集方法

アンケートはMicrosoft Office 365のFormsの機能を用いて作成した。対象となる看護師にメールにてFormsの回答用URLを送付し、回答を得た。

4. 2020年度における臨地実習における変更点

2020年度のA看護系大学における臨地実習は、COVID-19対策により、以下の変更があった。臨地実習

開始前に開催したA看護系大学とB病院の合同会議において、A看護系大学の担当者から各部署の臨床実習指導者等に対して変更点について説明し、内容を確認し合った。とくに、実習時期や日数の変更、一部代替え措置を取ること、各実習の担当教員と実習病棟で十分に情報共有しながら実習を進めていくこと、学生は病棟で電子カルテからタイムリーに情報収集できないため、当日の検査データなどのアップデートな患者情報については、適宜示しながら指導してもらうことについて確認した。

1) 3年次の科目別実習期間の短縮

2) 各科目別実習の一部を学内実習へ切り替えること

3) 病棟ステーションへの出入りを必要最小限とすること

4) 電子カルテ閲覧は、実習病棟内ではなく、大学内の電子カルテ室で実施すること

5) 飛沫感染のリスクが高い吸引などのケア見学中止

5. 調査時期：当該年度のB病院における臨地実習がすべて終了した2021年3月

6. 調査内容

調査項目は、A看護系大学の臨地実習目標を参考にし、独自に13項目作成した。この13項目について、それぞれ実習指導の取り組み状況、指導上の困難、コロナ禍による影響について尋ねた。これらの質問内容に対して、それぞれ4件法で回答を得た。

7. 分析方法

データ解析は統計ソフトSPSS ver.27を用いた。記述統計を算出後、実習指導における中心的役割を担う病棟看護師長および臨床実習指導者を役割あり群、担当看護師およびその他の所属の看護師を役割なし群として2群に分け、各質問項目の回答を得点化し(実習指導の取り組み状況：とても行っている4点～全く行っていない1点、指導上の困難：まったく困難に感じない4点～とても困難に感じる1点、コロナ禍による影響：まったく影響はなかった4点～とても影響があった1点)、Mann-WhitneyのU検定を実施した。有意水準は5%とした。無回答のデータは、項目ごとに除外して分析を実施した。

8. 倫理的配慮

看護管理者に調査協力を依頼し、許可を得て実施した。対象者には、調査目的、方法、プライバシーへの配慮、調査参加への自由意思、調査協力の任意性、調査結果の公表、目的外使用をしないこと等をメールにて説明

をした。Web調査への回答後の撤回はできないことを事前に説明し、調査に回答することで同意が得られたと判断した。

さらに、Microsoft formsのシステムはHIPAA（健康保険の携行性と責任に関する法律）とBAA（ビジネスアソシエイト契約）、FERPA（家族教育の権利とプライバシー法）を遵守し、保存時と転送時は暗号化されており、データが第三者に提供されることはない。

個別の回答結果は、B病院に所属していない研究者数名に閲覧権限を限定し、第三者が閲覧できないよう配慮した。調査期間終了後、データ分析を担当する研究者とは異なる研究者によって、個人を特定しうる情報を完全に削除した状態でデータ分析者に渡した。収集したデータは、パスワード付きUSBを用いて管理し、成果公表して10年後にデータを確実に削除する。

### III. 結 果

#### 1. 調査対象者の背景

回答が得られた対象者は233名（回収率43.1%）であった。対象者のうち、調査実施年度に実習指導に関わった141名（有効回答率60.5%）を分析対象とした。141名の内訳は、看護師長13名（9.2%）、実習指導者21名（14.9%）、担当看護師99名（70.2%）、その他8名（5.7%）であった。その他の内訳は、学生の見学実習部署や治療部門のスタッフ等であった。

#### 2. 看護師の実習指導の実施状況

看護師の実習指導の実施状況に関する回答結果を図1に示す。とても行っている、やや行っていると回答した割合が高かった項目は、「学生が看護実践を可能な限り経験・見学できるよう指導を行う」93.6%、「学生が把握し

握しきれていないケアに必要な患者情報を適宜教えながら指導を行う」90.0%であった。

逆に、あまり行っていない、全く行っていないと回答した割合が高かった項目は、「学生もPNSの一員だと意識して関わる」64.3%、「学生に電子カルテを見せながらケアに必要な患者情報を一緒に確認する」60.4%、「実習担当教員と情報共有を行う」41.3%、「学生のレディネスを把握して指導を行う」39.6%であった。

役割あり群と役割なし群の2群間で比較した結果を表に示す。有意差があった項目は次の4項目であった。「科目の実習目標や内容を把握して学生の指導を行う」、「学生のレディネスを把握して指導を行う」、「学生もPNSの一員だと意識して関わる」では、役割あり群の方が実施している者が多く、「学生の行動計画を把握して指導を行う」では役割なし群の方が実施している者が多かった。

#### 3. 看護師の実習指導における困難

看護学科の実習指導の困難に関する回答結果を図2に示す。まったく困難に感じない、あまり困難に感じないと回答した割合が高かった項目は、「学生のできているところを認めて承認する」83.6%であった。次いで、「学生が困っていることを一緒に考える」が71.0%であった。

逆に、困難に感じると回答した割合が高かった項目は、「学生もPNSの一員だと意識して関わる」67.6%、「学生のレディネスを把握して指導を行う」63.6%、「学生に電子カルテを見せながらケアに必要な患者情報を一緒に確認する」60.7%であった。

役割あり群と役割なし群の2群間で比較した結果（表）、有意差があったのは「学生もPNSの一員だと意識して関わる」1項目であり、役割あり群の方がより困難感が高かった。

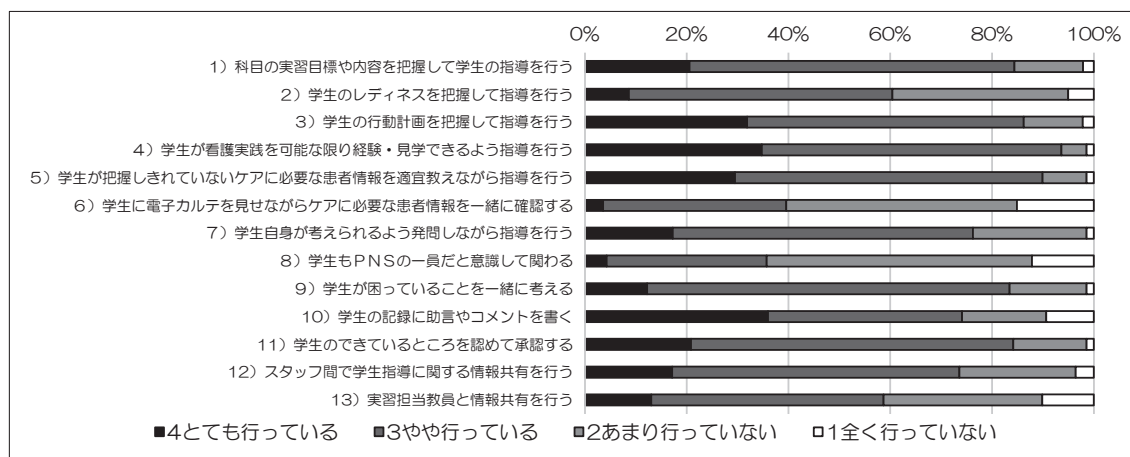


図1 B病院看護師の臨地実習指導の実施状況 (n = 141)

表 看護師の役割の違いによる実習指導実施状況・実習指導に関する認識の比較

	役割あり群		役割なし群		p 値
	n	M ± SD	n	M ± SD	
実習指導の実施状況					
科目の実習目標や内容を把握して学生の指導を行う	34	3.44 ± 0.66	107	2.90 ± 0.60	<0.001 **
学生のレディネスを把握して指導を行う	33	2.97 ± 0.68	106	2.54 ± 0.69	0.004 *
学生の行動計画を把握して指導を行う	33	3.03 ± 0.81	105	3.20 ± 0.67	0.288
学生が看護実践を可能な限り経験・見学できるよう指導を行う	34	3.21 ± 0.73	107	3.29 ± 0.58	0.687
学生が把握しきれていないケアに必要な患者情報を適宜教えながら指導を行う	33	2.97 ± 0.88	106	3.25 ± 0.53	0.128
学生に電子カルテを見せながらケアに必要な患者情報を一緒に確認する	33	2.21 ± 0.78	106	2.30 ± 0.76	0.419
学生自身が考えられるよう発問しながら指導を行う	33	2.88 ± 0.86	106	2.93 ± 0.61	0.886
学生も P N S の一員だと意識して関わる	34	2.82 ± 0.72	106	2.10 ± 0.65	<0.001 **
学生が困っていることを一緒に考える	33	2.82 ± 0.64	106	2.98 ± 0.55	0.174
学生の記録に助言やコメントを書く	33	3.00 ± 0.90	106	3.01 ± 0.97	0.797
学生のできているところを認めて承認する	33	2.91 ± 0.72	106	3.08 ± 0.61	0.231
スタッフ間で学生指導に関する情報共有を行う	34	2.88 ± 0.73	106	2.87 ± 0.73	0.774
実習担当教員と情報共有を行う	34	3.12 ± 0.69	104	2.45 ± 0.82	<0.001 **
実習指導における困難感					
科目の実習目標や内容を把握して学生の指導を行う	33	2.73 ± 0.57	107	2.55 ± 0.57	0.158
学生のレディネスを把握して指導を行う	33	2.27 ± 0.52	107	2.36 ± 0.60	0.471
学生の行動計画を把握して指導を行う	32	2.66 ± 0.60	106	2.75 ± 0.54	0.476
学生が看護実践を可能な限り経験・見学できるよう指導を行う	33	2.48 ± 0.57	107	2.63 ± 0.58	0.176
学生が把握しきれていないケアに必要な患者情報を適宜教えながら指導を行う	33	2.67 ± 0.54	107	2.68 ± 0.52	0.871
学生に電子カルテを見せながらケアに必要な患者情報を一緒に確認する	33	2.24 ± 0.61	107	2.38 ± 0.58	0.279
学生自身が考えられるよう発問しながら指導を行う	33	2.70 ± 0.73	107	2.55 ± 0.59	0.192
学生も P N S の一員だと意識して関わる	33	2.64 ± 0.60	106	2.06 ± 0.69	<0.001 **
学生が困っていることを一緒に考える	32	2.84 ± 0.57	106	2.75 ± 0.57	0.433
学生の記録に助言やコメントを書く	32	2.53 ± 0.62	107	2.53 ± 0.62	0.433
学生のできているところを認めて承認する	33	3.00 ± 0.56	107	2.94 ± 0.53	0.603
スタッフ間で学生指導に関する情報共有を行う	33	2.70 ± 0.68	106	2.78 ± 0.57	0.522
実習担当教員と情報共有を行う	32	2.81 ± 0.69	107	2.57 ± 0.65	0.067
新型コロナウイルス感染症対策による実習への影響					
科目の実習目標や内容を把握して学生の指導を行う	33	2.52 ± 0.67	105	2.68 ± 0.73	0.279
学生のレディネスを把握して指導を行う	33	2.39 ± 0.79	105	2.76 ± 0.64	0.026 *
学生の行動計画を把握して指導を行う	33	2.55 ± 0.71	104	2.81 ± 0.67	0.116
学生が看護実践を可能な限り経験・見学できるよう指導を行う	33	2.18 ± 0.77	105	2.41 ± 0.76	0.153
学生が把握しきれていないケアに必要な患者情報を適宜教えながら指導を行う	33	2.42 ± 0.66	105	2.75 ± 0.69	0.013 *
学生に電子カルテを見せながらケアに必要な患者情報を一緒に確認する	33	2.27 ± 0.84	105	2.71 ± 0.76	0.010 *
学生自身が考えられるよう発問しながら指導を行う	33	2.67 ± 0.69	105	2.87 ± 0.67	0.152
学生も P N S の一員だと意識して関わる	33	2.79 ± 0.55	105	2.76 ± 0.75	0.987
学生が困っていることを一緒に考える	33	2.70 ± 0.59	105	2.90 ± 0.61	0.107
学生の記録に助言やコメントを書く	33	2.79 ± 0.65	105	3.01 ± 0.64	0.079
学生のできているところを認めて承認する	33	2.82 ± 0.68	105	3.06 ± 0.57	0.054
スタッフ間で学生指導に関する情報共有を行う	32	2.81 ± 0.69	105	3.00 ± 0.59	0.207
実習担当教員と情報共有を行う	32	2.94 ± 0.62	105	2.94 ± 0.62	0.914

Mann-Whitney の U 検定 (n = 141) ※無回答は除く \*p &lt; 0.05 \*\*p &lt; 0.001

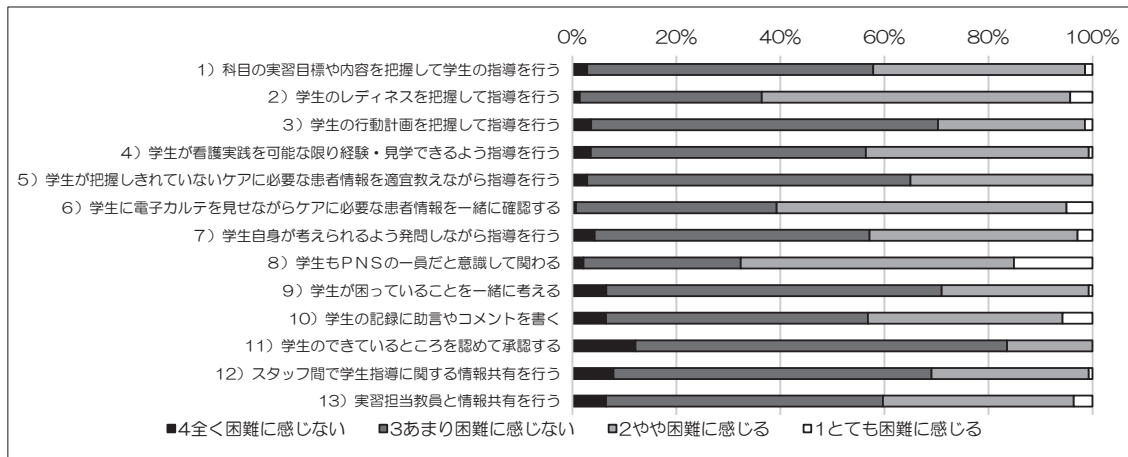


図2 B病院看護師の臨地実習指導における困難感 (n = 141)

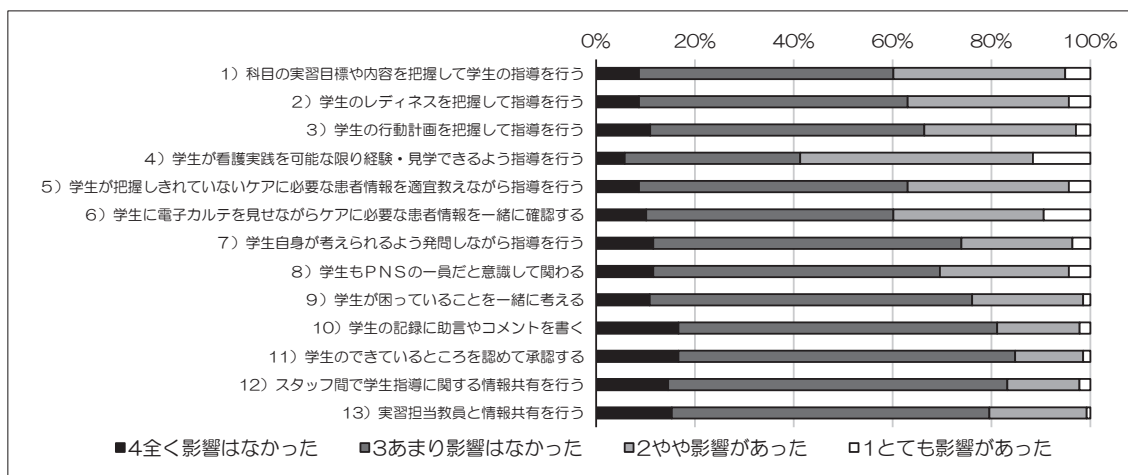


図3 COVID-19対策による臨地実習指導への影響 (n = 141)

#### 4. COVID-19対策による実習指導への影響

COVID-19対策による実習指導への影響に関する回答結果を図3に示す。あまり影響はなかった、全く影響はなかったと回答した割合が高かったのは、「学生のできているところを認めて承認する」84.8%、「スタッフ間で学生指導に関する情報共有を行う」83.2%であった。

逆に、やや影響があった、とても影響があったと回答した割合が高かった項目は、「学生が看護実践を可能な限り経験・見学できるよう指導を行う」58.7%、「科目の実習目標や内容を把握して学生の指導を行う」39.9%、「学生に電子カルテを見せながらケアに必要な患者情報を一緒に確認する」39.9%であった。

役割あり群と役割なし群の2群間で比較した結果、有意差があった項目は次の3項目であった。「学生のレディネスを把握して指導を行う」、「学生が把握しきれないケアに必要な患者情報を適宜教えながら指導を行う」、「学生に電子カルテを見せながらケアに必要な患者情報を一緒に確認する」は、すべて役割なし群の方が、

実習への影響があったと回答していた。

#### 5. 実習指導における自由記載

自由記載では、「コロナの影響で家族状況が分かりにくく、患者さんの理解に難しい面もあった。」「患者さんの部屋へ入る人数が制限されたり、暴露の恐れがあるケアについては経験できなかつたりした。」等、コロナ禍による情報収集や看護体験の困難に関する意見や、「実習体制の情報が不足していた」「指導教員と現場のスタッフの意見交換がもう少しできれば学生も安心すると感じた。」など教員と看護師の情報共有や連携に関する意見があった。

### IV. 考 察

#### 1. B病院における看護師の実習指導状況と認識

実習指導において看護師の多くが、「学生が看護実践を可能な限り経験・見学できるよう指導を行う」ことを

実施していた。学生は、臨地実習中に、看護師の提供するケアについて、経験からくる流れのような動作や援助中の言葉がけに注意を向けている<sup>6)</sup>。今回の結果は、看護師が役割モデルを果たすことにつながり、対象者に合わせた看護実践の工夫や、配慮などを学生が学ぶ貴重な機会になっていると推察された。またこの項目は、コロナ禍の影響があったと回答する看護師の割合が多い項目でもあった。コロナ禍でも、学生の看護実践の機会を確保するためには、各実習科目の担当教員、実習指導に関わる看護師、学生間で十分な共通理解が必要である。そのためには、今回のような合同会議による周知や各実習科目の担当教員と実習病棟の看護師間での情報共有が重要であると考えられる。

また同様に、「学生が把握しきれていないケアに必要な患者情報を適宜教えながら指導を行う」ことも、多くの看護師が行っていた。臨地実習において、受け持ち患者とのコミュニケーションに学生が戸惑う原因は、学生の情報不足による場合が多い<sup>7)</sup>。実習指導に関わる看護師が、学生が捉えきれていない患者情報を与えることで、対象者に合わせた看護実践に結び付くよう導いていると考えられた。この項目も、コロナ禍での影響があったと回答する看護師が多く、病棟内での電子カルテ閲覧の制限によりタイムリーな情報把握が難しかった学生に対し、看護師が適宜情報提供しながら指導していたと考えられた。

これらのことから、学生に臨地実習における看護実践を経験させようとする看護師の意識や姿勢が示され、臨床実習指導者、担当看護師の役割である学生の看護ケア提供における責任を一定果たしていると考えられた。

また、「学生のできているところを認めて承認する」、「学生が困っていることを一緒に考える」という項目では、困難感が低かった。このことから、学生に対する肯定的な言葉がけや学生と共に考える関わりを、多くの看護師が実習指導に取り入れていると推察された。学生は実習指導者にほめられることで、実習の満足感を得ることが報告されている<sup>8)</sup>。そして、学生にとって実習指導者が一緒に考えてくれた体験は、教えてもらうこと以上に多くのメッセージを与え、共に考えてもらった内容が、考えるに値する大事な問題であると気づかせる<sup>9)</sup>。よって、看護師の肯定的な言葉がけや学生と共に考える関わりにより、学生の内的な動機づけにつながっていると示唆された。

## 2. 看護師の実習指導における困難感と課題

今回の調査において、「学生もPNSの一員だと意識して関わる」ことの実施状況が低く、役割あり群よりも役

割なし群の方が、実施状況が低いことが示された。また、困難感も全体的に高く、役割あり群の方がより困難を感じていた。日本看護系大学協議会の実習ガイドライン<sup>2)</sup>において、実習指導者と教員が連携協働して、学生一人ひとりが看護職チームの一員としてケアに参画し、全ての実習目標を達成できるように、丁寧に指導するよう示されている。看護師長や臨床実習指導者は学生をPNSの一員として意識した関わりをしようとしているものの困難感が高いことがうかがえる。これらのことから、学生をPNSの一員だと意識して関わるのが実習指導における課題の一つであり、意識づけるための方策が必要であると考えられた。

また同様に、「学生に電子カルテを見せながらケアに必要な患者情報を一緒に確認する」ことについて実施状況が低く、困難感も高かった。2020年度は電子カルテ閲覧を学内で行ったため、電子カルテから情報を得る時間の確保やタイムリーな情報収集が難しい状況にあった。検査結果などのアップデートな患者情報は、学生に適宜教えながらの指導を合同会議で依頼していたが、実際には多忙な業務の中で、学生にカルテを見せる時間が確保できなかったと考えられる。自由記載にも実習体制の情報が不足していたなどの意見があり、学生の電子カルテ閲覧制限について、看護師への周知が十分でなかった可能性もある。

さらに、「学生のレディネスを把握して指導を行う」ことの実施状況が低く、また困難度が高かった。また、指導者などの役割を持たない看護師の実施状況が低かった。実習指導に関わる看護師は、多様性のある学生に対する指導の難しさなど、実習指導に対して戸惑いと困難があり、日々悩みながら指導に携わっている<sup>10)</sup>。とくに、担当看護師の学生のレディネスを踏まえた実習指導についての現場での周知や協力が難しいことが推察される。これは、新人職員の入職や部署異動などに伴い、実習に関わる看護師が流動的になること、定期開催している合同会議への参加は、臨床実習指導者と実習担当教員が主であることなどの背景が考えられる。

これらのことから、合同会議の定期開催による当該年度の実習計画に関する説明や実習指導に関する意見交換に加え、病棟看護師長や臨床実習指導者だけでなく、実習指導に関わる看護師へ周知するための方策や実習指導における教育的なスキルの習得を今後検討していく必要がある。

## 3. COVID-19 対策による実習指導への影響

本調査結果において、「学生が看護実践を可能な限り経験・見学できるよう指導を行う」、「科目の実習目標や

内容を把握して学生の指導を行う」では、COVID-19対策の影響があったと回答する者が多かった。2020年度は、感染症対策により、吸引など、学生が経験・見学できる看護実践に制限があったことが要因と考えられる。

また、科目の実習目標や内容の把握については、コロナ禍で初めて展開する臨地実習だったこともあり、実習期間や内容に変更が多かった。病棟看護師長や臨床実習指導者は前年度からの変更点を理解していたが、指導者などの役割を持たない看護師は、把握しきれていなかった可能性が考えられた。

これらのことから、コロナ禍での実習指導では、とくに実習に係る制限や変更点について教員と看護師間、および臨床実習指導者と担当看護師間で共通認識しておくことが重要であり、例年行っている合同会議や各実習科目で行う実習打ち合わせなどの機会を活用し、引き続き連携を図っていく必要がある。

#### 4. 本調査の限界

本調査は、1施設の臨地実習指導に関わる看護師の実習指導の状況と認識について報告するものであり、一般化はできない。

## V. 結 論

B病院で臨地実習指導に関わる看護師の実習指導の実施状況および実習指導に関する認識について調査した結果、看護師は、学生の看護実践の経験や見学ができるよう関わり、学生が把握していない患者情報を適宜教えながら指導を行っている現状があった。また、担当看護師、その他の看護師に比べて看護師長、臨床実習指導者の役割を有する看護師の方が、実習目標、内容、学生のレディネスを把握して指導を行っていた。一方、課題として、学生をPNSの一員と意識して関わっていないことや、学生のレディネスを十分把握していないこと、COVID-19対策による変更点のスタッフへの周知や電子カルテ閲覧制限に応じた患者情報の共有などが実習指導体制の課題であると示唆された。

## 利益相反

本研究における利益相反は存在しない。

## 謝 辞

本調査にご協力いただいた看護師の皆様に感謝いたします。

## 文 献

- 1) 日本看護系大学協議会．看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標．<https://www.janpu.or.jp/file/corecompetency.pdf>. (アクセス日2021.6.17)
- 2) 日本看護系大学協議会．看護学教育向上委員会資料 看護学実習ガイドライン．<https://www.mext.go.jp/content/000021135.pdf>. (アクセス日2021.10.4)
- 3) 中村伸枝, 竹中沙織, 仲井あや, 他．学生の看護実習を通じた学びの特徴と大学教員と臨床指導者の連携・協働のあり方．千葉大学大学院看護学研究科紀要 2014;36:21-6.
- 4) 篠田かおる, 三善郁代．大学病院における臨地実習指導者の感じる困難とその対処行動．愛知医科大学看護学部紀要 2015;14:23-9.
- 5) 植村由美子, 大島弓子．臨床実習指導で実習指導者が倫理的ジレンマと捉えた課題と対処．豊橋創造大学紀要 2017;21:34-47.
- 6) 三尾亜喜代, 曾田陽子, 小松万喜子．臨地実習で看護学生が注意を向ける看護師の行動と見習いたくないと認識する行動．日本看護学教育学会誌 2016;26:43-54.
- 7) 阿部トモ子．患者とのコミュニケーションにおける戸惑い：実習時に受け持った10ケースの分析から．看護教育 2002;43:299-304.
- 8) 詰坂悦子, 村中陽子．看護学生が臨地実習指導者にほめられたことによる心理的变化と学修への影響．日本看護学教育学会誌 2020;30:11-21.
- 9) 中西睦子．臨床教育論：体験からことばへ．東京：ゆみる出版；2006：293-4.
- 10) 佐々木史乃．看護学生の実習指導における臨床看護師の体験．日本看護学教育学会誌 2015;24:27-38.

(受付 2021年8月10日)